

令和4年度 北見カトリック学園 北見藤幼稚園 学校評価

1. 教育目標

- ◎一人ひとりがかけがえのないものとして、神様から愛されていることを知り、喜び悲しみを共にわかち合い祈る。
- ◎友だちと一緒に遊びや運動を通して、運動機能の発達をはかる。
- ◎発達段階に則した自立心を促す中で、健康に必要な習慣や態度を身につける。
- ◎自然と関わり、神様の偉大さ、不思議さに気づき、すべての恵みに感謝すると共に、すべてのものを大切にすることを養う。

2. 教育目標達成に向けての令和4年度の重点

- ①保育や行事の宗教的ねらいを意識した立案をする。
- ②本園の特色であるモンテッソーリ教育により丁寧な基本的な生活習慣の獲得を促す。
- ③友だち、教師、家族との関わりを楽しみ、信頼を寄せ豊かな人間関係を築こうとする子を育てる。
- ④自然の事象、生命の不思議、周囲の支えに感謝し神様の愛を知る。
- ⑤新しい生活様式を踏まえた保育や行事を通して健康や命についての意識を高める。

3. 評価項目の達成状況

評価項目	結果	理由
教育内容・環境の充実と計画性	3.7	コロナ禍での保育計画がさまざまな行事等の小規模開催となった。モンテッソーリ研修が習慣となり全てのクラスで実践できた。絵画製作の教材研究が深まった。
保育の充実と園児との関わり	3.7	ほとんどの職員が担任を複数年経験したことで、クラス運営と保育計画が充実された。また園児理解が深まった。
安全管理	3.6	園バスのマニュアルの徹底と保健衛生環境の保持に努めた。コロナウイルスの園内集団感染があった。
地域の幼児教育機関としての役割	3.8	子育て相談が活発に行われた。発達相談から関係機関と療育につながった。子育て講座のプログラムも豊富になった。情報発信が消極的だった。
教員の資質・能力向上	3.5	社会人としての知識行動の向上については更なる努力を求めている。文書作成、文章力、語彙、社会情勢への見解など足りない面が多い。
保護者との連携	3.8	コロナ禍における父母の会活動がやや消極的になったが行事は協力できた。コドモン導入により家庭からの意見が多数寄せられ、保育の見直しにつながった。

※結果の表示方法 4 十分達成されている 3 やや達成されている 2 あまり達成されていない 1 取り組まれていない

4. 令和4年度の総評

結果	理由
3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・バス送迎等の安全マニュアルが整備されたことで、安全確認の徹底が図れ、職員の共有となった。 ・参観日同日にクラス懇談を実施し、担任との交流ができた。 ・特別支援児の保護者会を発足し、情報交換と学習の場を設けることができた。 ・登降園管理システムにより詳細な家庭連絡ができた。半面、直に電話や家庭訪問の回数が減った。 ・地域の高齢者施設への訪問や人材活用に消極的だった。 ・園内研修が計画通りに実施されないことがあり、絵画体育などの実践的な教材研究が少なかった。 ・新しいことへの取り組みがなされたが、従来の保育内容の見直しに至らず、教師の多忙感もあった。

5. 来年度に向けての課題

- ・分掌を「担任・預かり保育」の区別せず、全職員がシフト制によって経験することで、子ども理解に繋げる。
- ・特別支援の研修を深め、連携期間との情報共有に努める。
- ・教育活動の様子を発信することで、保護者の理解につなげ、幼稚園への親近感を持ってもらうように努める。
- ・全職員の資質向上に努める。
- ・子育てしながらの職員のフォローを細やかにし、ワークライフバランスの職場作りをする。